

平成15年3月期 第1四半期個別業績報告

平成14年7月26日

上場会社名 大阪証券金融株式会社 上場取引所 大・東
 コード番号 8512 本社所在都道府県 大阪府
 問合せ先 責任者役職名 企画総務部長
 氏 名 西井生和 TEL (06)6233-4510

1. 平成15年3月期第1四半期の業績概況(平成14年4月1日～平成14年6月30日)

(1) 経営成績

(単位：百万円、百万円未満切捨)

科 目	当第1四半期 (平成14年4月1日 平成14年6月30日)	前第1四半期 (平成13年4月1日 平成13年6月30日)	前年同期比増減()		
			金 額	率	
営 業	営業収益	954	799	155	19.4
	貸付金利息	363	441	78	17.8
	借入有価証券代り金利息	251	102	149	2.5倍
	預金利息	4		4	
	有価証券利息	61		61	
	受取手数料	4	8	3	45.4
	有価証券貸付料	268	246	22	9.0
損 益	営業費用	337	279	57	20.7
	借入金支払利息	39	23	16	69.9
	コマーシャル・ペーパー利息	3	2	1	54.8
	貸付有価証券代り金利息	37	5	32	7.3倍
	有価証券借入料	227	214	13	6.2
	支払手数料	29	34	5	15.7
	営業総利益	617	519	97	18.8
	一般管理費	474	534	60	11.4
営業利益		143	15	158	
営業外損益	営業外収益	84	171	86	50.5
	営業外費用	0	36	36	99.9
経常利益		227	119	108	90.8

(注) 1. 預金・有価証券利息(当四半期65百万円、前年同期86百万円)につきましては、前年同期は営業外収益に計上しておりましたが、当期より営業収益に計上しております。

2. 支払雑利息(当四半期9百万円、前年同期32百万円)につきましては、前年同期は営業外費用に計上しておりましたが、当期より営業費用に計上しております。

(2)部門別営業収益

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	当第1四半期(14.4～14.6)	前年同四半期(13.4～13.6)	前年同期比増減()
貸借取引貸付	203	260	57
公社債貸付	2	5	3
一般貸付	281	345	63
債券貸借取引	92	29	62
株券貸借取引	307	153	154
預金・有価証券	65		65
その他	1	5	3
合計	954	799	155

(業績の概況)

当第1四半期(平成14年4月から6月まで)の株式市況をみますと、模様眺めムードが強く軟調に始まった日経平均株価は、4月下旬以降、国内景気の回復期待などを受けて上値を試す展開となり、5月23日には、年初来高値(11,979円)を付けましたが、その後は、米国株式相場の下落などが影響して続落商状となり、6月26日には、10,074円まで下落しました。

一方、期初685億円であった大阪市場の制度信用取引買残高は、漸増傾向で推移し、6月末には、1,089億円となりました。

この間の資金運用平均残高は、貸付金残高は減少しましたものの、貸債券取引等借入有価証券代り金の増加から、4,544億円と前年同期に比べ1,969億円の大幅増加となりました。

営業収益は、借入有価証券代り金利息の増加を主因に前年同期比155百万円の増収となったほか、一般管理費が賞与の支給時期のズレ込みから減少したため、営業利益は前年同期の赤字(15百万円)から143百万円の黒字となりました。

営業外収益を加えた経常利益は227百万円(前年同期比108百万円の増益)となりました。

なお、経営成績の(注)に記載のとおり、前年同期は営業外損益に計上しました預金・有価証券利息および支払雑利息を、当四半期は営業損益に計上しておりますが、前年同期分を当四半期と同一の処理を行った場合、前年同期比増減額は、営業収益が69百万円の増収、営業利益が104百万円の増益となります。

(当第1四半期における主な取組み状況)

貸借取引貸株料の新設

平成14年5月7日より貸借取引における貸株等利用の証券会社から、新たに貸付株券等の価額に対して年0.4%を乗じた額を「貸借取引貸株料」として徴収することとしました。

貸借取引品貸料率決定方式の変更

貸借取引貸株等超過銘柄の品貸料率決定方式を、これまでの超過株数と貸借値段によるテーブル方式から、取引参加者、機関投資家等からの品貸申込みによる入札方式に変更することとしました(実施日 平成14年7月10日)。

以上